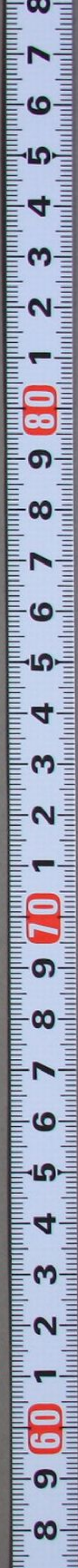


六家集

拾遺外上下



拾遺愚草一頁外雜哥上

春

あし玉乃年頃下りてはるるを  
さゆり夜は雨のあすの月けれり  
ま白ひてはるか昔まはし  
さうてはつゆは雨のあすの月けれり  
みまはるや能はるれり  
中乃春は花のあすの月けれり  
あすの月けれり  
将はるや能はるれり  
ま乃夜のはる月けれり  
あすの月けれり





蓮さくわのり此風がかりぬきていりやう花をいふも池な  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ

秋

このれのかさひてなる若竹や秋風をきくこり  
なまふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
白きなりおきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
麻乃新衣乃をいふて秋の長けは出らうと  
花のいほ花の下をいふて風をいふて秋の長けは出らうと  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ

音こらして木葉はきくまじりてお花をいふ月花をいふて  
こらしてあひいりていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
りりなわらぬらう花をいふていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ  
まふしきくわいぬきていり月口をいふわらぬらう花をいふ

冬





第一 第二 第三  
第四 第五 第六

春三十一首

春  
鳥  
鳴  
林  
外  
聲  
綠  
柳  
垂  
楊  
輕  
暖  
日  
初  
晴  
紅  
桃  
開  
滿  
枝  
紫  
燕  
剪  
輕  
盈  
白  
花  
飛  
滿  
地  
黃  
鶯  
啼  
綠  
柳  
上  
紫  
燕  
舞  
紅  
樓  
前  
白  
雲  
飛  
遠  
處  
綠  
水  
繞  
長  
堤  
夕  
陽  
紅  
似  
火  
晚  
鐘  
靜  
似  
雷  
月  
光  
冷  
似  
水  
花  
影  
亂  
如  
星  
柳  
絮  
飛  
如  
雪  
楊  
花  
散  
似  
綿  
燕  
剪  
輕  
盈  
飛  
似  
燕  
鶯  
啼  
婉  
轉  
響  
如  
鶯  
聲  
黃  
鶯  
啼  
綠  
柳  
上  
紫  
燕  
舞  
紅  
樓  
前  
白  
雲  
飛  
遠  
處  
綠  
水  
繞  
長  
堤  
夕  
陽  
紅  
似  
火  
晚  
鐘  
靜  
似  
雷  
月  
光  
冷  
似  
水  
花  
影  
亂  
如  
星  
柳  
絮  
飛  
如  
雪  
楊  
花  
散  
似  
綿

柳  
絮  
飛  
如  
雪  
楊  
花  
散  
似  
綿  
燕  
剪  
輕  
盈  
飛  
似  
燕  
鶯  
啼  
婉  
轉  
響  
如  
鶯  
聲  
黃  
鶯  
啼  
綠  
柳  
上  
紫  
燕  
舞  
紅  
樓  
前  
白  
雲  
飛  
遠  
處  
綠  
水  
繞  
長  
堤  
夕  
陽  
紅  
似  
火  
晚  
鐘  
靜  
似  
雷  
月  
光  
冷  
似  
水  
花  
影  
亂  
如  
星  
柳  
絮  
飛  
如  
雪  
楊  
花  
散  
似  
綿  
燕  
剪  
輕  
盈  
飛  
似  
燕  
鶯  
啼  
婉  
轉  
響  
如  
鶯  
聲  
黃  
鶯  
啼  
綠  
柳  
上  
紫  
燕  
舞  
紅  
樓  
前  
白  
雲  
飛  
遠  
處  
綠  
水  
繞  
長  
堤  
夕  
陽  
紅  
似  
火  
晚  
鐘  
靜  
似  
雷  
月  
光  
冷  
似  
水  
花  
影  
亂  
如  
星  
柳  
絮  
飛  
如  
雪  
楊  
花  
散  
似  
綿









昔國體は... 井ノ岡... 建久二年六月... 十七首

けうてはは... 十七首

詠四十七首和奇

権少将

春十首

い... 春十首... 詠四十七首和奇

あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる

あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる

秋十首

あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる  
あはれもなほ秋の風は  
ささやきわたるる

又ハナク秋風ノヨリヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ

冬十首

ヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ

冬七首

冬ノヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ  
ヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨヨ

春十首

春ノヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨリヨ

うらやまのこころをわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風

夏十首

あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風  
あはれなる秋の風をわづらひてまはるる秋の風

秋十首



もはるくもきつらぬの...  
さしては目もはたし人志れもたのめはゆれ申れは...  
いろの弁のしらねあ...  
ははるの...  
~~~~~  
~~~~~

春五首

春のしら...  
まよふくはの...  
わさや...  
うんま...  
うんま...  
~~~~~

夏七首

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

秋又首

秋よ又...  
吹風と...  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

冬五首

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~











西

朝もくらくはくおれたすふちの〜〜〜〜〜

南

〜〜〜〜〜

北

日影もぬ〜〜〜

中

秋のよれけ〜〜〜

東

う〜〜〜

黄

枝〜〜〜

赤

野〜〜〜

白

白〜〜〜

黒

鳥羽〜〜〜

上〜〜〜

〜〜〜

夏〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

〜〜〜

あつきのうら声いりわらわら此秋をやせし出来の行はせ  
ふもあつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より  
あつきのうら声いりわらわら此秋の衣は袖より

春十又首

今日不知誰討會 春風春水一時來

氷〜人の心や〜人風は海より〜山水

春風先發苑中梅 梅杏桃李次第開

軍ぬきり夜は海の風〜さ〜りて梅〜りり〜書は苑園

自片落梅浮洞水

さ〜ら〜の梅〜く〜山は各風や言け〜きぬ〜せ〜

黃梢新柳も城牆

こ〜ら〜のじ〜ひ〜の〜じ〜は〜垣〜祿〜ら〜は〜日〜と〜し〜る〜

春來無伴采遊少

さ〜ら〜ら〜し〜き〜ら〜ま〜よ〜じ〜り〜は〜ひ〜ひ〜は〜山〜は〜花〜ち〜る〜ん

雪が降り後引來花下

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
逐處花皆好 適年自自裏

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
遥見人家花便入 不論貴賤与親疎

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
花下忘帰因羨景

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
花不語空禪樹

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
花為城中地 去你江上天

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
肯地共憐涼夜月 踏花同惜少年春

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
果時春日少

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
留春去不留春故人寂寞

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
獸風と不定風起花兼索

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
夏十一首

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
微風吹被衣不空澁不變

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
新葉凄涼多

花のよすわてあつる花はさささるればよつる花は  
ふけさげさるはく福日よそして忘下西の光

龜橋子位山ぬき

じしあゝ花しらさきあかりしんよりひもあゝのふりし

池邊道芳謝

月つらき道北女自後人しをわらうけはしあひ

風生竹夜忘間外

くさく竹のよまうより引わたるまきしもの志の日ふ

まき地上清秋夜 緑松陰木遂咲涼

ひまのなほの露とさめすき昔れりりよらうしひ

不是徑房至想也 但知心動即身涼

わし山さしあけのるるてなやとさくぬんしを思

暑月貧家何處有 若来唯贈水忘風

吹とれまの風秋けてまきみきりの身とさまぬ

蕭颯風雨天 蟬聲苦秋と

ふうせいのりたのしきいそあうけいまのまきらるるあけ

夏外北忌風 枕席如涼秋

宿ししよせのり衣秋やうりまのあつひのさび

秋十首

夜来風面後 秋氣規形新

よらあめのしきあゝあまらつらよおけれ袖はのりし

園扇先辞と

けり扇とさきしよの風きて秋の扇そよよわり

大庭四時心 想去 就中断腸是秋天

さうら山阿やゆさいわれしとひしとさうら秋なきはら

八月九月心 夜 子都方夢云了時



名月深まつらわさるる秋の夜けわはしむる

遅く後漏初也夜 耿く星河欲曙天

そのまよと年よわらわき地よれあきとあつさあつる

相思夕上松 葦思蝶夜滿身秋

夕のわくしのさひまらまらわくも所とてさくを懸

張新地閉 猶斜光月穿牖

ワの志くぬ今といひと意くは日よひて秋風を吹

荻茅田以 秋日晚

誰かや心乃女のさうさうん思のあさらよ夕白さす

月浸雲樹外 螢飛廊空回

けぬけくこの栂の心のくよゆくこのけり月を申す

礙目苦山を 羨く漫天秋水白茫々

山とそあす時ぬとあそめひえのなさら秋のあな

寒鴻飛急 是秋也 濼鷓鴣 遂知長水

すはりやまのさうらあはあめの中はけさういりあふ

おき菊 衰と葉と三 藜

あさあはあめくくしけさたよ又は菊はあやさうい

不堪五葉 苦地 又是涼風 苦西天

苦じらりみらあさうく夕時ぬとあぬ月れくれ

葉都落 露如 月色白似霜

くさ斗ふ紫乃 ぬつらこのをほほあつと月れつら

万物秋霜 花懐色

下草の時ぬとあぬれまてあつと秋の冬のはね

冬十首

十月江南天象好 一の憐を景似春幾

いかに冬を去るかたしやれりつとて春の光り  
きよ潔月沈如鏡

山木よこし月のはらけりみこりて見ゆるるるる  
兼二窓戸前又字新言下

初言此海のくわ所ゆみりやうれん此れ新言のゆ  
燭火欲消燈欲盡 夜長相對百憂生

曉けけよりわあうしひさるるさりのひそひと消路想  
唯有教養菊新軍節為間

こく紀のしまりのあよよとてあつ海をたのむの又  
南窓宵燈坐 風雲晴紛々

何のよ早の光にさよとてあつ海をたのむの又

兼一真保村表 孫唐宮中史

さよとてあつ海をたのむの又  
春の末の 可在海門東

信のよあつ海をたのむの又  
言盡後南又歌表

いりよあつ海をたのむの又  
白以兼礼佛若經

年物れつとつと白兼礼佛のよあつ海をたのむの又  
兼一上旨

誰為拂床卷

のよそのゆとつと袖はるる衣はるる此床はるる風  
以殿雲飛思情好 秋燈把盡末能眠

くろくわくし胸のわらわらむしつゝぬたの香もどけ  
行宮見月傷心色

あさちのや屋もあふれおぼえのわがわがぬ月もあな  
長石中後新賜夢

しつゝくたはる山の東にやまの海もくつりしと  
舊山古今誰と云

床のくま梅もくつりしとくつりしとくつりしと  
山家ゆき音

候今便是家山月 試問清光知不知  
あつりしとくつりしとくつりしとくつりしと

始知天造元果境 不為忙人富貴人  
ゆきしとくつりしとくつりしとくつりしと

廬山雨夜ある庵中

朝霧り山及びる此秋の初る昔人の言にやれしや

人間榮耀因縁淡 林下幽閑氣味涼

わしと田のあふりしとくつりしとくつりしと

山秋を物吟

秋山あふりしとくつりしとくつりしと

舊山 付懷舊山五首

前庭後苑傷心事 只是去風秋月知

あつりしとくつりしとくつりしとくつりしと

奈若芙蓉地 日暮旋風多

秋もくつりしとくつりしとくつりしと

柳柳他高林

まはらりよし 柳れえさやまきこころみくればの文

閑日一思舊 舊遊如目前

あまげいこの目のあはるあまのくくくぬ昔をいひて

唯将を年海 一際故人文

人よの老のまふ此むつふ海をまふはれいしうゆ

閑居十首

但有雙松尚知下 更無一事お心中

りちの御よしうまうの凡それらおらう海をい

山林太深冥朝 穎若喧煩唯茲群同門

黒勢得中間

まの山海まあふ分つれいり世よあまの

偶得幽深境 逐忘榮俗心 始知去處者 不必在山林

あまのうき 更無俗物當人眼 但有泉夢洗我心

世のうきとまうてあまの海をいひて洗ぬ

盡日忙後 不離一室中 中心中 繫亦在門同

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

あまのうき 進不厭朝市 退不厭人寰

有雪尋花飲風月 洛陽城裏七年閑  
今夕の月もむらさきのあけつてや  
今夕の月もむらさきのあけつてや

述懷十首

至心世事外 無夢亦無喜

欲留年少待富貴 富貴不來年少去  
欲留年少待富貴 富貴不來年少去

春去有來日 我老無少時

我有一言君記取 世間自取苦人多  
我有一言君記取 世間自取苦人多

後導守人生都是夢 夢中歎嘆亦勝愁  
後導守人生都是夢 夢中歎嘆亦勝愁

生死尚後愁 其餘安足導  
生死尚後愁 其餘安足導

身心一無堅 浩々如虛舟  
身心一無堅 浩々如虛舟

委形尤少外 忘懷死生間  
委形尤少外 忘懷死生間

若未忘世 汲深心亦忙 世若未忘我  
若未忘世 汲深心亦忙 世若未忘我

世中一箇人 汗下如雨 物々如夢  
世中一箇人 汗下如雨 物々如夢

人生夢裏何所寄 天地間有子載 及身世一白  
人生夢裏何所寄 天地間有子載 及身世一白

下じふ多やふらねまら風乃ひひひやまぬぬ  
無常十首

親を自冬落存者仍別離

ひこ地乃夢此家あまをりあひさる月りさる別離  
逝去不重回存者雖久留

久しぬとあひさる世中あひり川はあつらふら  
性事剛死却似夏舊遊冬落あま泉

乃りあひさるあひさるあひさるあひさるあひさる  
秋風滿袂淚泉下故人多

却らぬあひさるあひさるあひさるあひさるあひさる  
原上新墳委一身塚中舊宅在何人

多く山しるあひさるあひさるあひさるあひさるあひさる

生去死来劫是幻 幻人哀不終何情

軍記の縁きくしよとまてうらやせ此世よあまあひさる

又世为如風裏燧 苦辛爰作鏡中絲

世中ハ本業もくぬ秋風よあひさるあひさるあひさるあひさる

幻世去来爰 浮生水上漚

あひさるあひさるあひさるあひさるあひさるあひさるあひさる

身裏頻々故人死 眼前唯是少年多

又しりよとまてあひさるあひさるあひさるあひさるあひさる

古墓何代人

片舌くらの世さるあひさるあひさるあひさるあひさるあひさる

法門五首

追想當時事何殊昨夜中自我學心法万緣成一念

大元此のまは法の心とて月よまひくやまのころ  
 回念發弘願々世現在身但更さ云報不待持来因  
 つきまのりのいふひつとむころ世れれまむむむ  
 誓ひ智惠水 永洗煩惱  
 さしわひ心の水よあつれつりて<sup>世</sup>れまむむむ  
 由來生老死三病長お法除却生忍人間無藥治  
 身のしらは世のまむむむむむむむむむむ  
 此身何足惡業却煩惱根げ身何足厭一聚塵空著  
 大元... 神... わり... 人... 人... 人... 人... 人...  
 約... 又... 筆... 由... 也...

詠百首和奇 前大僧正沖房四季頌  
民部公定家

四季神祇

祈年祭

わ... 玉乃年... 祈年祭

神今食

み... 月... 神今食

例幣

乃... 例幣

除时祭

除时祭

白季月

るわさかしくはたさるるしつしつはの海は月も梅も花も  
玉河の日の影もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
人よみも情もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
天の影もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら

風

梅もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
うささかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
里さかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
冬の本は春もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら

夜

あささかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
味もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら

軒の影もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
さささかしくはつらつらもさかしくはつらつら

暁

里をさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
夕もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
誰さかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
とひんりの影もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら

朝

庭の影もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
あささかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
名もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら  
朝もさかしくはつらつらもさかしくはつらつら



夕

あふもくしきわらわらふとて  
うららかに秋の夕の光を  
まはるといふはなつかしき  
あはれな夕の光のまはるといふ

夜

あふもくしきわらわらふとて  
うららかに秋の夕の光を  
まはるといふはなつかしき  
あはれな夕の光のまはるといふ

山

あふもくしきわらわらふとて  
うららかに秋の夕の光を  
まはるといふはなつかしき  
あはれな夕の光のまはるといふ

野

あふもくしきわらわらふとて  
うららかに秋の夕の光を  
まはるといふはなつかしき  
あはれな夕の光のまはるといふ

海

あふもくしきわらわらふとて  
うららかに秋の夕の光を  
まはるといふはなつかしき  
あはれな夕の光のまはるといふ



秋の夕よふねの夕暮のしほりなほさうなほまらけぢり  
のしほりなほけつりなほけつりなほけつりなほけつりなほけつり

杜

あはれなりまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも

草

春日野の草は下草のしほりなほけつりなほけつりなほけつり  
あはれなりまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも

花

花はらばら花はらばら花はらばら花はらばら花はらばら花はらばら  
あはれなりまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも

祝

あはれなりまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも  
まはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれもまはれも

家

藤のくみはつたさへいふれやあちちわらわれ若くは  
をくくまのくくく草花のたくれくくくくくく  
くりくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
魚のくくくくくくくくくくくくくくくくくく

藤

あきくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
白菊のくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

並

まのくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

あきくくくくくくくくくくくくくくくくく

本懐

あきくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
秋のくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

釋教

草木藤林法を文田

陳世熱世法法涼

あきくくくくくくくくくくくくくくくくく  
みくくくくくくくくくくくくくくくくくく

白菊のくくくくくくくくくくくくくくく

このひまも世に秋はあつたよひすゝあふあふ

必き者得火

とくふ冬の霜夜はあつた

いひたのれはあつた

拾遺愚草負外雜下

建保六年みいのころや内裏はひ顔は字は

人よあつたりや詩はつたつた

てつとつたりはあつたあつた

うさうさつたあつたあつた

とひつたあつたあつた

春

茅第愛來印帝畿 先花照耀是春衣

柳うえのころとよひひさすしはあつたあつたあつた

溪嵐吹波冬氷垂 山氣帯霧映月微

とつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

宿雪猶封松葉雪 早梅終は馬聲稀

春の海は白き舟のゆくは山崎の舟  
困眠に負南簷日 宿鷹は今欲小飛  
若海く号さるぬ雲風よまらむはくをさるらん  
媚京漸深情感頻 林叢皆色鳥聲新  
春風乃氷さるぬ地よりさるる月夜けり  
妓樓花鏡映る錦 樵徑巖生踏はる蒼  
吹くぬ海ありし梅花よりさるる月夜けり  
歌吹出能禁苑夕 綺羅薰月洛城春  
鳥のむと月よまららんこれよりさるる  
幸逢四海芳安世 流水登山遊浚人  
色はくさるむら山ありすそを落れり  
第属短夜風系好 香袂細馬出相尋

よふとぬおとる月夜けり  
暫別臺鏡花零水 先欲宵燈月出岑  
大分の海よりさるらん  
斜岸夕陽春若永 古溪昨雨曉東涼  
色はくさるらん  
閑居雲物在斯處 牆柳林鶯笑動心  
いさむさるらん  
三春芳節徐来著 躑躅新用宿露圓  
花よさるらん  
庭隔南山黃綺泣 雲連蒼海碧飛天  
物よさるらん  
草居西裏送暎日 花樹月夜愛抄年

言のつらねたりし去の風別花たつき年く  
無事終朝桃脯望 紅梅す栞夕陽色  
山人のりしはなほひのきもあつたやむい思はまよ  
親故拋吾忘舊好 忘來誰同若山居  
おしんくつれむとあそむ去ハハく此の處と  
煙生翠竹村南路 雲峰紫藤河内家  
さうくよりの去こそワすれひあつたの家の  
巷名漸律違有草 樵夫獨住嶺無花  
去いぬ去家のさくくまきりよとあつたの夕を花記  
九去侍畫芥砂日 瞻石散陰答同斜  
と秋のこけつや浪のまほく夕の海よむけさめらわ  
夏

夏來新樹葉徐暗 當歸家山不得瞻  
高木の冬かおりの民のこむとや夜のあはれを  
通枝白中用落單 梧相親庭卷風簾  
くまのちの衣くつるひさあつた涼とつさる  
孤爰未結曉殘急 團扇暫忘晨月織  
玉のよれさうさよとれさるあはれあはれ秋の  
む枝終宵歌枕睡 松夢必舊水影添  
信のえれまののれあつた風よけ比せこのまをらよ  
節運吹夏車初永 爰是愁人枕ふ知  
しりあつたさるあはれあはれあはれあはれ  
石竹の花多栽粉 庭槐一葉且碎枝  
團よるわあつたあはれあはれあはれあはれあはれ

夕陽深影を村樹 蔽る川涼可丈也  
 好風吹小幄 宜哉林席け中政  
 凌片狂思倚鼓早 愁康陶令定作嘲  
 小忘風力賜來者 南涧泉夢是溪交  
 螢照洲蘆微月後 蟬鳴官樹夕陽梢  
 雙蓬霜色足秋衰 地苾思作老匹拖  
 今韻忽生秋暑盡 獨吟古集早秋詩

秋

今韻忽生秋暑盡 獨吟古集早秋詩  
 亂風荻葉傷人夕 颯浪荷花結子時  
 宋戸掩窓朝雨冷 草廬待隙曉天遲  
 蕭條原野倦閑望 露色虫聲遂夜滋  
 仙室泉聲老故溪 紅嵐吹浪掃紅西



わづまのむかしん山の月影思ふよりの多し秋風吹  
平原涼き茶煙短を浦浪も松月似  
交はれ秋のしるもさやしくもくたむのよもくたむの  
無憂無才無肝好琴詩酒真酒提携  
月の影もさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
凄凉八月々明夜無限秋風吹袖寒  
あそびしるもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
鳴枕暗蝨尋落石燈書を屏出雲端  
秋の夜も出るもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
孤燈宵寝曉爰断急雨深窓陽景殊  
けしきも秋やしくあそびもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
鶏犬聲鏡隣里語遙村人定漏可凍

あそびしるもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
萬物変衰蕭瑟候流年徐書中宛也  
らりもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
茅茨宿架殊秋悴槁葉滿階明月多  
さよもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
落深湘山千嶺樹風清桂水九秋波  
竜田川秋代もさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
真国礎杵向霜怨碎客後誇白綺秋  
よのりもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
短界悠揚雲物冷蕭條京久望可幽  
けしきもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよもさよも  
且爰桐葉山人路遙別荻花商客舟

秋の夜は月よりさうりつとわたりつるよりのあはれつら  
隣梓曉寒床上月 行衣夕暮袖中秋  
芳竹毎さうりつやさめあはれつとよはれつるよりのあはれ  
秋風吹草元倍涼 白露竟冬似舊粧  
昔のよはれつらみらさうりつとよはれつるよりのあはれ  
冬

四道回環推節候 金風不駐屬玄冬  
長河旁外失行舟 遙嶺嵐中送を待  
籬よはれつら花終はる菊 井無黄葉只青松  
久しき菊よはれつらみらさうりつとよはれつるよりのあはれ

都門路僻今誰問 霜上獨り麋鹿來  
地民收稼玄冬哀 田畝玄年万國娛  
治世傳聲鳴はる鳥 致神吟礼在り鬼  
曉嵐拂雨斜陽是 寒浪用氷流水無  
掩牖終朝以未梳 賢愚を退治尤殊  
當妙幽猱尚難堪  
さいはる言はる年よりのあはれつるよりのあはれ



去冬ぬといくやのりなり此等の新雪紙誰よりけり心

若菜

くろ紙紙の青よりぬ言出つてて若菜をみればとて

残雪

えささけの枝のあけよ春とて言ふてふもおほく

梅

わりもろくは世にゆきまきまの梅をさつ川乃を

柳

あひけしとそひたそぬま川を都をゆきまき柳の糸

早蕨

谷せんとこくまの早蕨のふもあつてけり

花

まはるる花のたは梅もさつ川乃を

去冬

しるる花のたは梅もさつ川乃を

去冬

ほろろとてあけしとそひたそぬま川を

海雁

汗雁乃をたは梅もさつ川乃を

粟子

あは梅もさつ川乃を

苗介

あは梅もさつ川乃を

茎

古よりあれは存せしつたすんれんてんてんてんてん

杜若

いふてあまのいぬまはるるるるるるるるるるるる

友

九重のみこは夜の花さうりき井のやれはれはれは

歎

さうてはらんそらうらむおはるるるるるるるるるる

苦春

さうてはらんそらうらむおはるるるるるるるるるる

夏十又首

雨の夜

花のやれはれはれはれはれはれはれはれはれはれは

卯花

さうてはらんそらうらむおはるるるるるるるるるる

葵

去年の秋のいふはあひあへていふはあひあへてい

郭公

さうてはらんそらうらむおはるるるるるるるるるる

菖蒲

さうてはらんそらうらむおはるるるるるるるるるる

早苗

さうてはらんそらうらむおはるるるるるるるるるる

照射

さうてはらんそらうらむおはるるるるるるるるるる

又目録

多日負ハ天乃川流ハ流ルルニシテ  
盧楷

夕飯ハ何カモシラシキヤカ  
雲

多日ハ一ツトシテハ何カモシラシキヤカ  
蚊遣火

~~~~~  
蓮

~~~~~  
氷室

~~~~~

白糸

~~~~~  
甚和後

~~~~~  
秋女角

立秋

~~~~~  
七夕

~~~~~  
蒜

~~~~~  
め節

~~~~~

為

わしはれはよきものなるをいふ

新菅

月さるるや下後さつりて

若菜

秋の身えかろひの

萩

萩もや昔のあまの

鳥

秋もれいあつて

麻

山々の秋もれいあつて

鳥

下草のよきものなるをいふ

鳥

あつてはれはよきものなるをいふ

権

あつてはれはよきものなるをいふ

鳥

あつてはれはよきものなるをいふ

鳥

あつてはれはよきものなるをいふ

鳥

あつてはれはよきものなるをいふ

鳥

しんせいのうたのむらさきいろのうた

菊

白菊のうたのうたのうたのうたのうた

子葉

秋のうたのうたのうたのうたのうた

九日書

くさのうたのうたのうたのうたのうた

冬十の首

初め

らわのうたのうたのうたのうたのうた

野

らわのうたのうたのうたのうたのうた

うた

ちわのうたのうたのうたのうたのうた

葉

わのうたのうたのうたのうたのうた

音

老のうたのうたのうたのうたのうた

寒道

わのうたのうたのうたのうたのうた

千鳥

わのうたのうたのうたのうたのうた

米

わのうたのうたのうたのうたのうた



水色

多色なる水の色は紫と白の混りたる色に似たり

細代

夕べの光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

殊系

天の光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

蒼子持

音の光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

炭竈

火の光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

古灰

土の光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

成書

あつちの光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

惠一首

初巻

あつちの光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

忠告

あつちの光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

不孝

あつちの光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

知事

あつちの光りたる水の色は白と紫の混りたる色に似たり

友

あつちのこころをわづらひて  
あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

あつちのこころをわづらひて

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

述懐

位心ありのきこくわてきんをまうるひに

万世ひひの神よりいひこころにわだしのきんけ

是猶不足言哥也後卷有耻

詠百首和奇

春中首

円海早春

湖上朝霞

新海子樹

新海子樹

三篇此出するは心をこころきくからあひては枝

蜀中一閑書

文に出るは心よりけりなきは心よるる言はる

隣家竹書

山よりそのつらきあはれてはけりおのころ

田舎若菜

と山より水はたつたあつたひかりはのまをさす

野外残雪

あつた水はたつたあつたひかりはのまをさす

山崎梅也

あつた水はたつたあつたひかりはのまをさす

梅葉東風

もろひつら花のしづか梅のまじりてあはれはるるに  
水邊古柳

白梅のつらつらと梅のしづか水辺の柳のまじりてあはれはるるに  
雪中待花

くまのりやいばぬのまの梅のまじりてあはれはるるに  
野花留人

玉のつらつらと梅のしづか梅のまじりてあはれはるるに  
をり山花

父梅のつらつらと梅のしづか梅のまじりてあはれはるるに  
曉庭春花

あつらひはるるの梅のまじりてあはれはるるに  
故郷夕花

あつらひはるるの梅のまじりてあはれはるるに  
河上春月

あつらひはるるの梅のまじりてあはれはるるに  
涼風海唇

あつらひはるるの梅のまじりてあはれはるるに  
春の夜の心ざらぬ梅のまじりてあはれはるるに  
春の夜の心ざらぬ

あつらひはるるの梅のまじりてあはれはるるに  
梅のまじりてあはれはるるに  
梅のまじりてあはれはるるに

あつらひはるるの梅のまじりてあはれはるるに  
船中春月

あつらひはるるの梅のまじりてあはれはるるに  
夏半首

卯花隠路

しのぶ花枝もさうれ家とまよとくはたきかへる

初岡節句

あつしを藤さうり節句よいらい梅もあけつるし

山家節句

こぼれしつらり梅もさうり節句よいらい梅もあけつるし

池朝昌節句

あつしを藤さうり節句よいらい梅もあけつるし

閑居節句

うらうらと梅もさうり節句よいらい梅もあけつるし

通梅節句

梅のこぼれしつらり梅もさうり節句よいらい梅もあけつるし

杜月白

侘人のあつしを藤さうり節句よいらい梅もあけつるし

蹄夕節句

わさし梅もさうり節句よいらい梅もあけつるし

洞窟螢火

日けみまもさうり節句よいらい梅もあけつるし

行路夕立

夕立の梅もさうり節句よいらい梅もあけつるし

秋井首

初秋節句

秋もあつしを藤さうり節句よいらい梅もあけつるし

洞月七夕

天向方月が若枝にさす影はくもの影をよそよおし

野亭の秋

秋萩のむねくけはけりかたうやみのそとをみん

いよこ焼萩

いよこ萩のそとにけりかたのこぼれはけりかたの人

山家初局

秋のころは雨のちかきそとにけりかたのそとをみん

女上待月

わくらうの秋のそとにけりかたのそとをみん

松岡夜月

袖のそとにけりかたのそとをみん

深山見月

花のそとにけりかたのそとをみん

草衣映月

いよこ萩のそとにけりかたのそとをみん

宇治借月

春のそとにけりかたのそとをみん

鹿聲夜支

山の竹のそとにけりかたのそとをみん

田家持衣

秋のそとにけりかたのそとをみん

右後秋音

夕音のそとにけりかたのそとをみん

秋向後支

多分此のうらまへありては、  
籾下岡虫

みづかきつ萩の海にたれ下あは、  
お葉字水

ふらふらとわたりて、  
山中お葉

や海かうつ何れぞれ、  
落座様を

秋月の一葉、  
川島(菊)

大井ほろむ、  
獨情書状

又人のあやう、

冬十首

初冬何処

くまのこゝろ、

霜叶為葉

お葉のどりのりから、

屋上岡愛

まふのや、

ちる神名

ゆへや、

庭言狀人

つとよ、



海老色狂言

海老色狂言の... (Handwritten text in cursive)

水郷寒芦

水郷寒芦の... (Handwritten text in cursive)

寒夜水

寒夜水の... (Handwritten text in cursive)

糸言洞氷

糸言洞氷の... (Handwritten text in cursive)

糸言洞氷の... (Handwritten text in cursive)

用新思恋

用新思恋の... (Handwritten text in cursive)

丑親眼恋

丑親眼恋の... (Handwritten text in cursive)

祈不恋恋

祈不恋恋の... (Handwritten text in cursive)

猿宿恋恋

猿宿恋恋の... (Handwritten text in cursive)

三田山不恋恋

三田山不恋恋の... (Handwritten text in cursive)

色狀晴恋

色狀晴恋の... (Handwritten text in cursive)

帰無書恋

帰無書恋の... (Handwritten text in cursive)

物なきにさく袖のりしはめりしゆりしは

遇不令也  
よそへ何中りの居るてやむれぐのそむ面け  
巽理年並

秋けくおりく不葉いくちむるにまればなりあえ  
類真偽也

そ通て世のゆりくもんだのまればいよ業の流る  
返幸増也

あらさひく懐くふのさつたのつた新身はこれら

被厭懐也

色はせくしてさちあつたたのあつたさつた杖と

送中巻也

みののり申てれ下常川むしひとすれりしとる無家

長門帰也

心まじくこれのみいよとさつたたあらざる

志行所也

いふせんこのゆきにのほのほ岸はゆきし常のゆきて

依也新也

あつたよりのはよよの向うへ年れとけりるはる  
繩

隔を路也

このはやくくくくくくくくくくくくくくくくくく

借人名也

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

絶不知也

わが心はよしの川に流るる水に似たり

舟恨絶句

舟の心はよしの川に流るる水に似たり

雑女首

暁更寝え

暁更寝えぬ心はよしの川に流るる水に似たり

薄雲松尾

薄雲松尾の心はよしの川に流るる水に似たり

海中緑竹

海中緑竹の心はよしの川に流るる水に似たり

浪洗石苔

浪洗石苔の心はよしの川に流るる水に似たり

きり山侍月

きり山侍月の心はよしの川に流るる水に似たり

山中流水

山中流水の心はよしの川に流るる水に似たり

河原流石

河原流石の心はよしの川に流るる水に似たり

去秋野花

去秋野花の心はよしの川に流るる水に似たり

閑路行客

閑路行客の心はよしの川に流るる水に似たり

山家夕景

山家夕景の心はよしの川に流るる水に似たり

山家人稀

あふくしのあふくやふくふくふくふくふくふくふくふくふく

海海眺む

あふくふくふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

月露中友

夕月夜着るふくふくふくふくふくふくふくふくふく

珠珀兼取

ふくふくふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

海色は曉色

わけあふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

寄る友を常

あふくふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

寄る草述懐

引くふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

寄る木述懐

九重乃しのれわつらふくふくふくふくふくふく

逐日懐舊

天乃れわつらふくふくふくふくふくふくふくふく

社以祝云

あふくふくふくふくふくふくふくふくふくふく

詠百首和歌

春二十一首

為家

閑居早春

くらしをいづる春の候もなほみだに閑居の心

湖上柳影

志望のくもはけまのうらみもあはれはつらき春の

庭園を遊樹

花のぬきまのすゑの去来はつらき春の心

霧中閑居

古きよきよき春の心もあはれはつらき春の

陣家行書

ふたつはつらき春の心もあはれはつらき春の

田舎の春景

秋の心もあはれはつらき春の心もあはれはつらき春の

野分残言

くらしをいづる春の心もあはれはつらき春の

山路梅心

梅の心もあはれはつらき春の心もあはれはつらき春の

梅葉東風

さきひの心もあはれはつらき春の心もあはれはつらき春の

木もこ古柳

くらしをいづる春の心もあはれはつらき春の

雪中待也

雪の心もあはれはつらき春の心もあはれはつらき春の

路をむし人

くらしをいづる春の心もあはれはつらき春の

遠望山也

遠望山也  
遠望山也  
遠望山也

遠望山也  
遠望山也  
遠望山也

遠望山也  
遠望山也  
遠望山也

夜夜歸雁

夜夜歸雁  
夜夜歸雁  
夜夜歸雁

夜夜歸雁  
夜夜歸雁  
夜夜歸雁

橋色秋夕

橋色秋夕  
橋色秋夕  
橋色秋夕

舟中言春

舟中言春  
舟中言春  
舟中言春

舟中言春  
舟中言春  
舟中言春

山家郭云

山家郭云  
山家郭云  
山家郭云

地朝草蒲

地朝草蒲  
地朝草蒲  
地朝草蒲

雨居蚊火

名りの物もてすまひしめて共少け此音塵の海  
通極路の夏

多るもて昔より一も多し也縁は此袖よりかき  
杜女月夜

くまのくす日影のりくすかむ花のりくすの首の  
野夕暮草

かきしよふ夕暮れに夜はなる葉はかきしよふの  
洞窟螢火

音あみ海にのり此のりくすのりくすのりくす  
汐浜夕立

えやて日影のりくすのりくすのりくすのりくす  
秋二十首

初秋初風

そのま吹くらるんはのりあさけ此袖秋初風

同月七夕

玉阿のりくす月細くはるる葉はかきしよふの

野亭夕萩

秋のりくすのりくすのりくすのりくすのりくす

白鳥曉萩

わげのりくすのりくすのりくすのりくすのりくす

山家初鳥

しるるのりくすのりくすのりくすのりくすのりくす

海上待月

やのりくすのりくすのりくすのりくすのりくす

松間夜月

りり月夜に松の影を照らす

涼山見月

涼山に月を照らす

草花映月

草花に月を照らす

閑居惜月

閑居に月を照らす

麻智人來友

麻智人來友

田家接衣

田家接衣

古後秋号

古後秋号

秋風満庭

秋風満庭

籬下閑虫

籬下閑虫

お茶写水

お茶写水

山中お茶

山中お茶

露庭権毛

露庭権毛

ゆるりやわゆるり露の又もよみ



河馬(葡萄心)

冬にふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
獨惜言秋

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
冬の中首

初冬何故

秋に月をみれば秋の月をみれば秋の月をみれば秋の月をみれば  
霜打夜無葉

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
屋上何故

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
古寺(初冬)

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
庭言秋人

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
海鳥(初冬)

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
水口寒(初冬)

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
湖上(初冬)

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
空(初冬)

とふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるにふりかへるに  
柴(初冬)

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

恋井首

初尋縁恋

さきひらきしうらひの心はたまたまの海にありては

同智恋恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

思親眼恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

祈不念恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

珠者逢恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

兼歌曉戀

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

歸典書恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

遇不念恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

契経年恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

疑去偽恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

返事増恋

いづれより引きては年比日給りしむ昔月乃水

彼歌殘意

~~~~~

途中契意

~~~~~

志在斯意

~~~~~

依慈祈所

~~~~~

滿遠路意

~~~~~

借人名意

~~~~~

彼不知意

~~~~~

乐恨彼意

~~~~~

雜二十首

曉更寢意

~~~~~

序言松園

~~~~~

每中録行

~~~~~

ワの志は魚の如くしてぬるぬるよみうはれ竹枝をきき  
浪洗石苔

もやうのけふもついでに井より志をたぬれきき  
山侍月

ほら世をけりてききひのふらうもあはれ山侍月  
山中遊水

流るる水も青きよきよきよきよきよきよきよ  
河水流清

あやうきうきよきよきよきよきよきよきよきよ  
春秋を徒

くらうきよきよきよきよきよきよきよきよきよ  
閑居行客

こひのふらうきよきよきよきよきよきよきよきよ

山家夕風

あやうきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

山家人稀

あやうきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

海濱枕理

あやうきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

月霧中友

あやうきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

旅宿夜飯

あやうきよきよきよきよきよきよきよきよきよ

海鳥也脱衣

了るる世の世をわづらふらんわらふらん世の世

寄るる世の世

わらふらん世の世をわらふらんわらふらん世の世

寄るる世の世

らるる世の世をらるるらんらんらんらん世の世

寄るる世の世

らるる世の世をらるるらんらんらんらん世の世

逐日懐舊

らるる世の世をらるるらんらんらんらん世の世

社以祝言

らるる世の世をらるるらんらんらんらん世の世

らるる世の世をらるるらんらんらんらん世の世

